

日本学術会議地球惑星科学委員会IUGG分科会IAG小委員会（第25期・第5回）
議事要旨

日時： 令和5年6月19日（月）16:00～18:00

会場： Zoomによるオンライン会議

【出席】 古屋正人，青山雄一，荒木博志，市川隆一，伊藤武男，大坪俊通（オブザーバー），太田雄策，小澤拓，鷺谷 威（オブザーバー），高木悠，田中愛幸，宮崎真一，宮原伐折羅，渡邊俊一（敬称略）
計14名

配布資料

資料1： 2019-2023年期第9回IAG Executive Committee会合報告

議題

- (1) IUGG2023 報告の測地学会誌への投稿と分担について
- (2) IAG Executive Committee からの報告（資料1）
- (3) IUGG 分科会の報告
- (4) 第26期（令和5年10月1日以降から3年間）のIAG小委員会について
- (5) その他

1. IUGG2023報告の測地学会誌への投稿と分担について

今年の日本測地学会講演会および測地学会誌上で、IUGG2023を報告する方法と担当について共有した。本日の出席者のうち7名の参加があること、どのセッションで発表するか、各機関からの他の参加者の有無などの情報を共有した。

2. IAG Executive Committee からの報告

宮原委員より2019-2023年期第9回IAG ECについて資料1に基づいて報告があった。主要な点は以下のとおり。

- ・EGUに合わせてウィーンでハイブリッド開催された
- ・IAGとGGOSのアウトリーチ活動を統合し効率化するための素案がGGOS事務局より提案され、基本方針が了承された。
- ・GGOSの意志決定構造について、簡素化かつIAG各組織から直接代表を迎えて意思決定するための改定案が示され、基本方針が合意された。次のIUGG総会で改定内容を反映したIAG Bylawsが承認され、GGOS ToRも改定する予定。GGOS Japan（GGOS Affiliate）は、投票メンバーとして新しいGoverning Boardに参加する予定。
- ・IUGG総会におけるIAG関連シンポジウム、開会・閉会セッションについての概要報告
- ・役員選挙結果の報告。日本からは古屋委員長がMembers At-Largeに選出された。
- ・IAGコミッションの1つであるGNSSの細分化・再構築について、次期体制で検討を継続する。
- ・Journal of Geodesyのベストレビュワー賞が新設される。

3. IUGG 分科会の報告

古屋委員長より、今回および4年後のIUGG開催へ向けたIUGG分科会の活動と海外の動向について説明があった。IUGG執行役員、次期IUGG開催地等への投票は、IUGG分科会の東委員長に一任することとなった旨報告された。第26期以降の学術会議の会員、連携会員の選考が現在進行中であることも説明された。

4. 第26期（令和5年10月1日以降から3年間）のIAG小委員会について

古屋委員長から、第26期以降の委員の選考方法について説明があった。10月より前にIUGG分科会から指示があると思われるが、古屋委員長が世話人として準備を開始する。

5. その他

次回IAG小委員会は10月の日本測地学会会期中を予定。